令和 6 年

第 7 回大洗町農業委員会総会議事録

大 洗 町 農 業 委 員 会

第7回 大洗町農業委員会総会議事録

令和6年7月25日（木） 午後17時00分

令和6年7月25日大洗町農業委員会が大洗町教育センター会議室に招集されたので、会議を開いた。

その次第は次のとおりである。

議案第16号 農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による農用地利用配分及び集積計画の決定について（農地中間管理事業）

議案第17号 農地法第5条の規定による許可について

諮問第1号 農業振興地域整備計画変更に係る意見について

報告第11号 農地法第4条の規定による市街化区域内の農地転用届出に対する専決処理について

報告第12号 農地法第18条第6項の規定による合意解約について

出席委員	1番 大貫善之	2番 藤沼洋一
	3番 米川政宏	4番 勝村勝一
	5番 和田淳也	6番 今村和章
	7番 深作勝久	8番 小沼正男

本日の会議の書記は次のとおりである。

中崎亮二、藤沼佑介、江橋宏祐

会長は午後17時00分に議長席につき、定数に達したので会議を開く旨を述べ、会議規則第13条の2項により議事録署名人 3番米川委員、4番勝村委員、5番和田委員の各委員を指名する。

議長 議事に入ります。議案第16号及び、関連する報告第12号を上程いたします。事務局より説明をお願いします。

事務局 [議案第16号及び報告第12号について説明]

議長 本案につきまして、何かご意見はございますか。

4番 契約期間について、前の契約期間を継承する内容だが、新たに期間を設定することはできないのか。

事務局 中間管理機構と耕作者の貸借契約を解約し、新たな耕作者と契約を結ぶものですが、中間管理機構に確認したところ、農地の貸し手と中間管理機構の間にある貸借契約は解約されていないため、その契約期間が継承されるということです。

4番 機構の規則の話だと思うが、耕作者が借りやすいように柔軟な対応が必要だと

- 考える。
- 2 番 大貫地区においては、特別賦課金の徴収が終わったとしても、今後那珂川沿岸農業水利事業における水の利用が開始されてから新たに賦課金が設けられる。貸し手・借り手の双方にとって適切な貸借が成されるよう、農業委員会としても考えていかなければならないのでは。
- 議 長 借りる人がいなくなってしまう状況にならないよう、貸し手には耕作者側の現状を理解してもらうことが必要。
- 議 長 本件につきまして、他に何かご意見はございますか。
〔異議なしの声あり〕
- 議 長 一同異議なしにより、本案は許可することといたします。
- 議 長 続いて議案第17号を上程いたします。事務局より説明をお願いします。
事務局 〔報告第17号について説明〕
- 議 長 本件につきましては、現地確認を行っておりますので1番委員より説明をお願いします。
- 1 番 議案17号について報告します。去る7月18日に農業委員2名、事務局2名と譲り受け人等の立会いのもと現地確認を実施しました。項1から項4に共通するのは、周囲を含め休耕地であり、水田の湿地帯であることです。また、管理については、いずれも年2回以上の草刈りを実施するとのこと。撤去を想定した対応については、国の法律に基づき廃棄のための積立を行うとのこと。以上のことから、許可相当と判断します。
- 議 長 本件につきまして、何かご意見はございますか。
- 3 番 潤沼の付近であるため、太陽光発電施設が増加していくことで自然環境の面で影響が生じることを懸念している。そういったことを規制するルールはあるのか。
- 事務局 農地区分の観点からは、2種・3種農地は転用が可能ですが、1種農地や農業振興地域内の農地は転用が認められていません。また、他の法令からの観点でも、例えば自然公園法・鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律等により、太陽光施設等の設置を規制している地区があります。太陽光施設への転用案件については、これらの法令への適合不適合の確認を含め、茨城県が定める「太陽光発電施設の適正な設置・管理に関するガイドライン」に準拠されているかどうかを、当町の生活環境課において確認しています。
- 議 長 太陽光設備は、しっかりとした基礎が打たれていない上に元が水田の土地のため、台風等の災害時に飛ばされるなど、地元住民への影響が懸念される。
- 事務局 農業委員会の立場としては、土地の利用の観点で申請を受け付けています。施設の整備や近隣住民等への説明等は「太陽光発電施設の適正な設置・管理に関するガイドライン」において必要な対応が明記され、事業者に求めています。
- 議 長 県のガイドラインと言うが、生活環境課は湿地である現状を見た上で大丈夫だと思っているのか。
また、今後、基盤整備事業の計画がある中で、太陽光施設への転用のために農

地を売る場合の価格が農地として売る場合よりも高額なため、基盤整備事業に着手した場合に、農家が農地を買えない状況が懸念される。

2 番 農地の売買価格に影響が生じる懸念は無視できないが、土地の所有者の視点で考えれば、誰からも耕作してもらえずに放棄地となっている現状で放っておくよりも、太陽光施設に転用したほうが良いと考えるのは理解できる。

3 番 最近、太陽光施設への転用案件が急に増え、危機感を抱いている。農業委員会でも不許可としてもいいのか。

6 番 確かに農業委員会には転用申請を不許可とする権利はある。しかし、これまで同様の案件で許可したものと整合がとれないうえに、不許可とする明確な理由が説明できるのか。

3 番 不許可とするならば、農業委員の多数決で決めたという根拠でもいいのか、あるいは法的な根拠が必要なのか。

6 番 不許可とする根拠は示さなくてはならない。

5 番 訴訟されることも想定しなければならない。

議 長 ここで採決をとります。

〔賛成：6人 反対：1人〕

賛成多数ですので、本件は議案のとおりといたします。

議 長 続いて諮問第1号を上程いたします。事務局より説明をお願いします。

事務局 〔諮問第1号について説明〕

議 長 本件につきましては、現地確認を行っておりますので7番委員より説明をお願いします。

7 番 諮問第1号について報告します。去る7月18日に農業委員2名、事務局2名と現地確認を実施しました。場所は旧夏海小学校の北側で、住宅地に近接しています。当該地の隣の畑は耕作されていますが、境界付近に木が植えられていて、住宅が建てられても日照等の影響はあまりないと考えます。以上のことから、本件は問題ないと考えます。

4 番 当該地域の人口が増えるのは良いこと。

2 番 農振地域から除外する土地の奥に畑が残るため、耕作放棄地にならないか心配。

議 長 本件につきまして、他に何かご意見はございますか。

委員 〔異議なしの声あり〕

議 長 一同異議なしにより、本件は報告のとおりといたします。

議 長 続いて報告第11号を上程いたします。事務局より説明をお願いします。

事務局 〔報告第11号について説明〕

議 長 本件につきまして、何かご意見はございますか。

委員 〔異議なしの声あり〕

議 長 一同異議なしにより、本件は報告のとおりといたします。

・その他

1. 農地パトロールについて

本日の会議は以上をもって閉会を宣す。

議長は、午後18時30分議案及び報告を全て終了したので閉会を宣す。

上記会議の次第を記載し、その相違なきを証するため署名捺印する。

令和6年7月25日

議 長

委 員

委 員

委 員